

見えない仕事を進んでやることの大切さ☆

私は、大学時代、武蔵野市営プール（10円プールと呼ばれています）でアルバイトを5年間夏季限定でしていました。仕事の内容は、プールの監視とプール内及びプールサイドの清掃でした。仕事を始めて10日間ほどした時に、30代くらいの恰幅の良い男性が、やはりこの人もアルバイトとして入ってきました。ある日のこと、プールの営業前、私がプールサイドのごみを拾っていると、その方が外にある駐輪場の周りのごみを拾っている姿が見えました。私は思わず、「その場所は、特に私たちの清掃区域じゃないのでバイトがやらなくてもいいんですよ」と教えてあげた時、彼はにっこりと笑い「ほら、高校生の時ってさ、先生が見ているときはキチンとするのに、見ていないときは、だらけたり、さぼったりするでしょ。でもね、高校時代の先生がね、こう言ったんだ 『見えない仕事は、進んでやりなさい！見える仕事は、みんなでやればいい！そうすれば、人生を幸せにするってんだ！』 ってね。」

私は、この人と出会ったおかげで、教員になってからも、「人が見えない仕事」を常に意識し、今に至ります。保健体育の教師として22年間、毎朝、生徒の登校前、グラウンドの石拾いや教室の清掃を欠かさず続けました。

◆4月21日（金）

この日の早朝、学校へ到着すると、女子バレーボール部の生徒が、自転車置き場や中庭を顧問の先生と一緒に掃除をしていました。（写真）私は、この光景を見て、大学時代のその人を思い出しました。朝早い時間から、ひょっとしたら皆さんが登校する前には、掃除が終わっているかもしれません。掃除をしてくれた生徒は、何事もなかったように、この掃除自体が当たり前であることとして、皆さんには、特段、掃除のことを話題にしたりすることはないのかもしれませんが。でも、ふと足元を見た時に、ごみが落ちていない、溝に溜まったほこりも落ち葉もきれいに掃かれていることに気が付いたら、そっと仲間に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてあげてください。一人一人が気持ちよく学校生活を送ることができるのは、こうした見えない仕事を進んでやってくれている仲間や先生がいる素敵な学校であることをあらためて実感できることでしょう。いつもと変わらない朝を迎えましたが、校長として本校生徒や先生を誇りに思う、そして学びの匂いを感じるととても素敵な朝の一場面でした。 令和5年4月

